

原始的河川ノ處理ニ就テ

言叶 議 土木學會誌 第二卷第五號 大正五年十月

著者 工學博士 岡崎文吉

1355

自著原始的河川ノ處理ニ就テカ市瀬工學博士及安達工學士ニヨリ二回討議ニ上リタルヲ喜フ就中前者ニ對シテハ更ニ討議ヲ試ムルノ必要アリト考フルヲ以テ本號ニ於テ對應スルコト、セリ
本論ニ於テハ氾濫貯水量及ヒ河岸收容力共ニ固有ノ河道内ニ於ケル洪水收容力ヲ含マサルモノニシテ即チ本論第二章第五節ノ二〇及ヒ二一頁ノ公式中ノ横斷面積ヨリよりノ垂直線間ノ河道上ノ浸水面積ヲ除外スヘキヨト正誤表ニ示シ置キタル如シ而シテ其河道内ノ洪水收容力ヲ上記氾濫貯水量及ヒ河岸收容力ノ計算以外ニ置キタルハ必スシモ懸案ノ場合ニ河道上ノ浸水面積ハ廣漠タル氾濫横斷面積ニ比シ微小ナリトシテ之ヲ省略シタル儀ニ非ス更ラニ後段ニ於テ述フル所ノ理由ニヨルモノニシテ強テ研究上ヨリ河道内洪水收容力ヲ無視セントシタルモノニ非ス尙此ノ機會ニ於テ著者ハ本論所載ノ洪水氾濫貯水量ノ増減率及ヒ河岸收容力等ヲ基礎トシ將來ニ於ケル洪水量ヲ推定スルノ資料ニ供セントシタル調査研究ノ經路ヲ説明セントス
著者ノ知レル範圍ニ於テハ氾濫スル河川ノ洪水ヲ堤防ニ據リ全部河道内ニ拘束シタル後ニ於ケル洪水最大流量ノ推定方法ヲ具體的ニ説明セルモノハ佛國ノ先輩ミル (M. Comey) 氏ナリト思フ先ツ之ヲ次ニ引照セントス

1356

今若シ河川ノ或點 A ニ於テ其ノ横斷面ノ幅ヲ縮少シタリトセんカ其ノ流量 D ニ對スル以前ノ水位 H ハ斷面縮少ノ結果之レヨリ稍々高キ H' ニ達スヘシ
 L 及 L' ヲ以テ斷面縮少ノ前後ニ於ケル河幅ヲ示スモノトセハ新水位ノ H'' 。

$$H = H' \times L / L'$$

ナル式ニ依リ之ヲ得ヘシ 但シ流量 D ハ斷面縮少ノ前後モ變化セサルモノト假定ス

該假定ノ下ニ於テハ上記ノ公式ハ A 點ノ上流ニ於ケル河幅ニ變化ヲ與フル方法如何ニ依リ其ノ適用ノ効力ヲ失フコトナシ是レ河幅ノ増減ハ流量ノ變化ヲ來サヘハナリ
然レトモ該公式ノ示ス新水位 H'' ハ洪水時ニ於テハ必シモ正確ナリト謂フヲ得ス何トナレハ洪水時ニ於テハ氾濫區域内ニ起ル凡ヘテノ變化ハ又洪水流量 D ヲ變セシムヘケレハナリ
説明ノ簡便ヲ期スルタメ懸案ノ洪水ハ一降雨ノ結果ニ基キ單ニ一回ノ昇降ヲ示スモノト假定セハ A 點ニ於ケル洪水最大流量ハ

(一) A 點ノ上流々域内ニ於テ實際降雨ヲアリタル地帶ノ面積
降雨ノ強度

降雨ノ期間

沿岸土地ノ傾斜
土壤滲透性ノ程度

(六)(五)(四)(三)(二) A 點上流ニ於ケル氾濫浸水面積ノ大小

ニ依リ定マルヘシ上記ノ(一)乃至(五)ハ全ク河床ノ性質及其ノ加工如何ニ拘ハラサルモノナルモ(六)ハ懸案ノ問題ニ對シ重要ナル故ニ其ノ洪水最大流量ニ及ホス作用及影響ハ詳細ニ之ヲ考究ス

M'ノ必要アリ

平時ノ流量以上ニ洪水時ニ於テ餘分ニ流過スル總テノ流量ヲ洪水全流出量ト稱ス該流量ハ洪水ノ初期ヨリ其最高點ニ達シ再ヒ當時ノ平水位ニ復歸スルニ至ル期間ノ流出量ノ總和ニ相當ス故ニ若シ洪水期ヲ通ジタル觀測ノ結果ニ基キ曲線 $CD'E$ ヲ描キ其ノ横距ヲシテ時間又其ノ縱距ヲシテ該時間ニ相當スル上記觀測水位ニ對スル流量ヲ示サシムル時ハ之ヲ流出量曲線ト云フハ茲ニ觀測此ノ曲線ト平水流量線ノ間ニ介在スル面積六四點ニ於ケル洪水全流出量ヲ示スヘシ

該全流出量ハ増水期間ニ相當スル流出量 QDE 及減水期間ニ相當スル流出量 $E'D'E$ ヨリ成立スルモノトス但ニ該二曲線ノ面積ノ差ニ於ケル全流出量ノ值ハ支流ノ分配及其ノ重要程度ニ從之河川内々各地點ニ於テ異ルモノトス

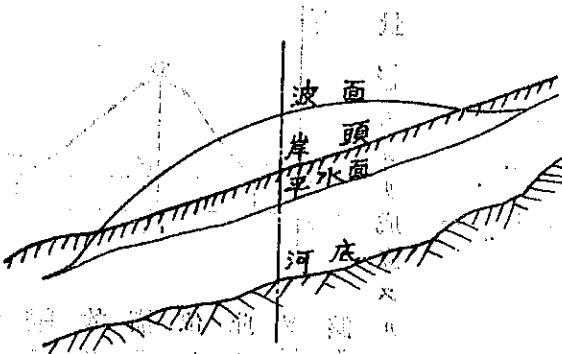
河川内々各地點ニ於ケル全流出量ノ值ハ或ル與ヘラレタル洪

ラスト雖モ増減水ノ各期間ニ對スル各部分的兩流

出量ハ洪水ノ流出狀態ヲ變更スルコトニ依リ異ルモノニシテ其ノ全流出量ノ值ヲ變セザル範圍内ニ於テ一方ニ增加シタル分量ハ他方ニ於テ削減セラ

ルヘキモノトス

上ノ二圖ハ増減各期間ノ流出量ニ變化ヲ受ケタル場合ニ於ケル曲線の變化ヲ示ス即チ流出量曲線 CDF ハ増水期ノ流出量カ減少スル場合ニ出 CDF ナリ又其ノ増加スル場合ニハ $CD'F'$ トナル



流路ノ長キ且ツ洪水ノ急速ナル河川ニ於テハ洪水ハ通例河長ヨリ稍々短き長サフ有スル一ノ波浪ヲ形成スルモノシテ洪水即チ波浪在其ノ下流ニ於テ現出スルニ先チ既ニ其ノ上流ニ於テハ消滅スルヲ普通トス該波浪ノ全容積ハ即チ洪水流出全量ヲ示スモノニシテ氾濫浸水區域内ノA點ニ於ケル最大水位即最大流量ノ時刻ニ於テA點上流ノ平水面上ニ貯蓄セル河道内及沿岸ノ總水量ハ該點ニ於ケル減水期ノ洪水流出量ヲ示スモノト知ルヘシ

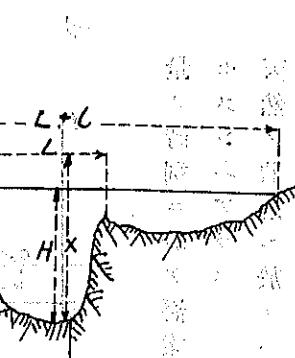
在スル時水ノ全量ヲ増減スル時ハ從テ反對ニ増水期ノ流出量ノ増減ヲ惹起スルモノト知ルヘシ
前記ノ如ク增減兩時期ヲ通シタル全流出量ニ變化ヲ來タナ
ム事也此ノ點ノ以上ハ一方ノ増減ハ必ス之ヲ補償スル爲メ他方ニ於テ正
反對ノ増減ヲ生スヘキヨドヲ忘ルヘカラス
前記ノ如ク増減兩時期ヲ通シタル全流出量ニ變化ヲ來タナ
ム事也此ノ點ノ以上ハ一方ノ増減ハ必ス之ヲ補償スル爲メ他方ニ於テ正
反對ノ増減ヲ生スヘキヨドヲ忘ルヘカラス

T 又ハ稍々之シ下異ナル(増水期間ノ變化ニ就テハ後章更ニ之ヲ説ク)時間内ニ於テ面積 ODE ヲ以テ示ス増水期ノ流出量カ増減シ得ル爲ニ $M'D$ ヲ以テ示セル每秒時ニ於ケル最大流量ハ $M'D$ 又ハ $M'D'$ ナル值ニ變化セサルヘカラス故ニ最大流量カ A 點ニ達スル瞬間ニ於テ A 點上流ノ河道内及沿岸ニ存在 \triangle 水量ノ増減ヲ反對 A 點ノ最大流量ノ増減ヲ意味スヘシ
セスンハアラス

上記ノ考究ニ從フトキハ或工事カ其之レヲ施行シタル影響トシテ定點ニ於ケル毎秒時ノ最大流量ニ變化ヲ惹キ起ス所以ノモスハ該工事カ最大流量ノ時刻ニ於テ懸案箇所ノ上流ニ於ケル河道内及沿岸ニ存在スル貯水量ニ變化ヲ與フホニ基因

他面又於テ本築堤ニ因リ包圍セラセタス新河道内ニ於ケル水位ノ增高ヲ來タル築堤ニ因リ生シタル新河道ノ面積上記水位ノ增高ニ等シキ水深ヲ乘シテ得タル水層ニ相當スル水量ヲ新河道内ニ貯蓄シ即チ前段ノ作用ニ逆行シテ幾分ノ貯水量ヲ補償スルノ結果ヲ生ベシ此ノ後段ノ貯水量ニ對シテ築堤ノ上流終端ヨリ尚上流ニ於ケル水面上昇ノ結果トシテ自然ニ生スル逆水量ヲ加タルモノハ即チ實際ノ貯水量ナル可キモ該逆水量ノ前記ノ築堤全長ニ亘ル新河道内ノ貯水量ニ比シ一般ニ輕微アルヲ以テ今之ル計算ヨリ省クコトアリス

次ニ築堤ニ依リ遮断シタル貯水量下新河道内ニ生シタル補償貯水量トヲ比較スルニ當リ築堤後ニ於テハ水位增高シ從テ其ノ流速増大スルカ故ニ築堤以前ノ天然狀態ニ於ケルヨリモ洪水流過ニ及半生根、柳枝、蘆葦ノ爲メニ要ス者面積ハ稍々少ニシテ足ルキヲ以テ新河道内ニ於ケル貯水量ハ築堤前半於ケル氾濫貯水量ニ比シ僅少ナルヘシト假定シ更ニ次ノ如ク詳細ナル考究ヲ試ミントス



貯水

既に貯水の算出今比較セントスル二個ノ水層即チ貯水量ノ容積ハ其ノ長サニ於テ殆ド相等シキモノト見做シ得ルカ故ニ單ニ其ノ横斷面積ヲ比較セハ其大半ハ築堤前洪水最大流量ノ時刻ニ於ケル河道内ノ最大水深ヲ用ヒ所

前問題ハ洪水最大流量カ築堤後手如何ナシ變化ヲ受クルヤア從テ提間ニ於

タル新洪水位Xを如何ナカニ達スルヤア調査スルニケリ此ノ問題

八、水理學ニ依リ直接ニ之ヲ解決スルニ至困難ナリヘキモ左記ノ方法ニ依リ懸案ノ洪水最大流量ノ變化スル經路及其ノ値ヲ定ムルヲ得ベシ。此式は實驗及理論上ノ結果也。但開河ノ時
先以テ洪水最大流量カ築堤ノ因リ其ノ變化ヲ受ケサルモノト假定シテ該假定ヨリ生スル理論
的結果ヲ考究セントス。すゝ間ニ止ニハ該程ノ計算が能く成らる。則モ大抵此等の問題
該假定ニ於テハ又ナル水位ハ築堤前ニ於テル最大流量即チ該最大流量ニ相當スル時刻ニ於ケル
河道内ノ流量及浸水平原上ノ流量ヲ加ヘタ水至レニ築堤後ニ遲滯カク流過するムルニ足ルノ值
又有セラズ。カクス。モ開河モ川清々開ニ身置キ是處モ大抵其時現ハ開河モ川清々通航可能ナリ
問題ノ意味ヲ明瞭ニシム其ノ考究ヲ簡易ナラシムル爲該格段ノ場合ヲ想像セントス。

一、某河川流域ノ面積ノ算出ノ方法。某流域ノ面積ノ算出ノ方法。某流域ノ面積ノ算出ノ方法。
某流域ノ面積ノ算出ノ方法。某流域ノ面積ノ算出ノ方法。某流域ノ面積ノ算出ノ方法。

某流域ノ面積ノ算出法。某流域ノ面積ノ算出法。某流域ノ面積ノ算出法。某流域ノ面積ノ算出法。
某流域ノ面積ノ算出法。某流域ノ面積ノ算出法。某流域ノ面積ノ算出法。某流域ノ面積ノ算出法。
某流域ノ面積ノ算出法。某流域ノ面積ノ算出法。某流域ノ面積ノ算出法。某流域ノ面積ノ算出法。
某流域ノ面積ノ算出法。某流域ノ面積ノ算出法。某流域ノ面積ノ算出法。某流域ノ面積ノ算出法。
某流域ノ面積ノ算出法。某流域ノ面積ノ算出法。某流域ノ面積ノ算出法。某流域ノ面積ノ算出法。
某流域ノ面積ノ算出法。某流域ノ面積ノ算出法。某流域ノ面積ノ算出法。某流域ノ面積ノ算出法。
某流域ノ面積ノ算出法。某流域ノ面積ノ算出法。某流域ノ面積ノ算出法。某流域ノ面積ノ算出法。

$$L \sqrt{X} = L \sqrt{H^2 + 2g}$$

ヲ得シシ該式ニ依リ上記ノ數量ヲ挿入シテ

$$L \sqrt{X} = 7m.515$$

ヲ得シ此値ヲ採用シ之ニ對スル堤間ノ新横斷面積ヲ計算シ其ノ結果ヲ從來ノ河道及浸水平原

ノ横断面ト比較スルトキハ

遮断サレタル水層ノ断面ハ

$$1000 \text{ m.} \times 2.00 = 2000 \text{ m.}^2$$

新河道内ノ断面ハ

$$300 \text{ m.} \times 2.515 = 755 \text{ m.}^2$$

トナル

即チ上記ノ如ク築堤ノ結果洪水最大流量ノ變化ヲ生セサルモノト假定スレハ最大流量ノ時刻ニ於テA點ノ上流ニ存在セシ貯水量ハ築堤ノ結果トシテ輕減セラレタルモノト見做サハルベカラス何ントナレハ計算ヲ示ス如ク築堤ノ爲メ遮断サレタル貯水量ハ堤間ノ新河道内ニ補足セラレタル貯水量ノ約三倍ニ相當スルコトヲ示セハナリ然ルニ一面ニ於テハ該假定ノ下ニ最大流量ハ不變ナリトシタルヲ以テ築堤ハ一面ニ於テ流出量曲線ニ何等ノ變化ヲ與ヘサルノ理ナリ即チ減水期ノ全流出量ハ築堤後ト雖モ其ノ值ヲ變セサルモノナリト云ハサルヘカラス
然レトモ是等雙方ノ條件ハ同時ニ成立スルヲ許サヌ何ントナレハ若シ兩立スルモノトセハ吾人ノ一般ニ認メテ實際ニ適切ナリトスル條件即最大流量ノ瞬間ニ於テA點ノ上流ニ存在セシ貯水量ト減水期間ノ全流出量ト相均シトスルノ關係ヲ無視セサル可ラサルヲ以テナリ
斯ノ如ク相均シカルヘキ理由アル二者ノ間に差異ヲ生スルノ結果ニ陷レルハ以テ前記假定ノ許容スベカラサルコトヲ示スモノナリ即チ築堤後A點ニ於ケル洪水時ノ最大流量ハ築堤前ノ夫ビニ比シ異リタル數ヲ示スヘシ換言スレハ最大流量ハ不變ナリト見做スベカラス
斯カル等シガルヘキ二者ノ間に生スル差異ヲ消滅セシムルノ方法トシテハ洪水最大流量ノ増加ニ俟ツノ外ナシ何ントナレハ該最大流量ヲ増加スルコトハ増水期間ノ全流出量ヲ増加シ其ノ結果トシテ減水期間ノ全流出量ヲ減少シ同時ニ又最大流量ノ増加ハ自然ノ結果トシ堤間ノ水面ノ上昇ヲ惹起シ爲メニ築堤後ニ於ケル最大流量ノ時刻ニ於テA點ノ上流堤間ノ新河道内ニ貯蓄セ

ラル、貯水量ヲ増加スル所以ナルヘケレバナリ又上記ノ差異ハ洪水最大流量ノ増加ニ伴ヒ漸次減少スルノ傾向ヲ有スルカ故ニ結局最大流量ノ變化ニ起因シテ變更セラレタル流出量曲線ニ依リ與ヘラル、減水期間ノ全流出量ヲシテ新最大流量ノ時刻ニA點上流ニ於テ堤間ニ蓄ヘラレタル水量ニ等シカラシムルノ條件ヲ満足セシメ得ル新最大流量ノ存在ヲ認メサルヲ得サルノ理ナ則該最大流量ハ即チ築堤ノ爲メ新ニ生シタルモノニシテ而シテ上記ノ考究ニ依リ明カナル如ク此ノ變更セラレタル新最大流量ハ築堤前ノ最大流量三比シ遙カニ大ナルモノトス。上記ノ如ク上記ノ計算ニ於テハ増水ノ期間ハ築堤ノ前後ニ於テ異ラスト假定シタルモ實際ハ然ラスシテ洪水ハ其ノ間隔狹キ堤間ノ河道内ニ於テハ廣キ河道及之ニ伴フ沿岸浸水原野ノ存在スル場合ニ於ケルヨリ毫迅速ニ到達スルコト實驗上明瞭ナルカ故ニ其ノ長サ上記ノ如ク三十きろメートルヲ有スル築堤ヲ行ヒタル後ニ於テハ増水ノ期間ハ幾分ノ短縮ヲ來スコト疑ヒナシ。築堤ニ依リ變形セラレタル増水期ノ流出量ヲ示ス曲線ハ元ノ曲線 CD ノ示ス如ク増水期間 T ニ相當スル CD' ニ非ラスシテ T' ヨリ稍々少ナル T' ニ相當スル CD'' ナルヘシ。此ノ増水期間ノ短縮ハ洪水每秒時ノ最大流量ヲ增加スヘシ何トナレハ T ヨリ稍々少ナル T' 時ニ相對スル面積 $CD''E''$ ヲシテ $CD'E'$ ニ等シカラシムル爲メニハ $D''M''$ ハ $D'M$ ヨリ大ナラシムルヘカラス泥シヤ $CD''E''$ ヲシメナルヘカラス。上記ノ考究及計算ヲ綜合スルトキハ築堤ニ依リ從來氾濫セラレタル平原ヲ保護スル場合築堤後ニ於テハ洪水最大流量ヲ増加スルヲ免レスト云フノ結論ニ到達スベシ。

餘ス所ハ該増加ノ割合ヲ決定スルニアリ

公式ニ依リ直接ニ築堤ノ爲メニ生スル新最大流量ヲ算出スルノ方法ヲ観見スルニ舊シムト雖モ簡便ナル近邇法ニ依リ假定及試算ヲ反覆シテ之ヲ推定スルノ途ナシトセス

狹窄セラレタル堤間ヲ流過スル爲メニ生スル洪水位上昇ノ程度カ該上界ノ結果トシテ既ニ増水期間ヲ通シテ點ヲ築堤以前ニ比シ餘分ニ流過シタル流出量カ築堤ノ結果トシテ洪水最大流量ノ時刻ニ於テ築堤以前ニメ點上流ニ存在セシ時水量ノ減少量ニ相均シキニ達スヘシ換算スレハ此ノ場合新洪水最大流量カム點ニ達スル時刻ニ其ノ上流ニ存在スル時水量ト築堤以前ニ存在セシ時水量トノ差ハ同點ニ於ケル増水期ノ流出量ヲ現ハス曲線面積ノ增加ニ均シカツサルヘカス築堤以前ノ増水期間及廣義ノ意味ニ於ケル河川ノ天然幅員ヲ知リ又築堤後ニ於ケル増水期間ノ短縮ヲ假定シ之ヲ計算ニ加入スルトキハ與ヘラレタル堤間ノ間隔ニ對シ洪水面ノ或ル增高ニ相當スル上記二個ノ因子ノ値ヲ計算シ得ヘシ素ヨリ此ノ試算法ニ依リ一擧ニ上記二因子ノ均等狀態ニ達シ得ヘカラサルモ斯ル試算ヲ反覆スルトキハ遂ニ實際ニ於テ生スヘキ洪水面ノ增高ヲ決定シ得ヘシ

上記ハコモウ一氏ノ論說ニ係リ洪水最大流量ノ増加率ノ決定ニ對シテハ洪水カ下流ニ顯出スル前ニ上流ニ於テハ既ニ其形跡ヲ沒スルカ如キ場合ヲ假定シ洪水時間ノ短縮ヲ假想シ作製的ニ流量曲線ヲ描キ試算法ヲ反覆スルノ方法ヲ取リタルニ止マリタルモ時間ニ對スル氾濫ノ烈度ヲ考量ノ外ニ置キタルト且ツ又其方法ノ作製的ニシテ煩雜ナルト稍不正確ニ陷ルノ弊アルヲ免レサルヲ思ヒ著者ハ一般ノ場合ニ於テ之ニ比シ精合理的ニシテ一層實際ニ近シト認メ得ヘキ安全ナル方法ヲ案出セントシ本誌所載ノ原始的河川ノ處理ニ就テニ於テ說述セル氾濫時水量増減率ヲ基礎トシテ河川改修後ニ於ケル洪水最大流量ノ増加率ノ最大限度ヲ推定セタルモノナリ

然シテ氾濫貯水量及ヒ河岸收容力ヲ論スルニ當リ河道内ノ洪水收容力ヲ別ニ計算外ニ置キシ所
以ハ本論ヲシテ一般的ナラシメント欲シタルカ故ナリ換言スレハ河道内ノ洪水收容力ノ如キハ
上記乙もわ一氏ノ説ク所ノ如ク單ニ築堤ノミニ依リ氾濫ヲ防止シタル結果著ルシク在來洪水面
ヲ高メタル場合又ハ河身ヲ切換ヘテ洪水面ヲ低下セシメ絶對ニ氾濫ヲ防止シタル場合等ニ於テ
ハ各別箇ノ取扱ヒヲ要シ本篇所論ノ骨子トスル氾濫貯水量ノ増減率ニ河道内ノ其ヲ加算セサル
可ラサルコト勿論ナリ石狩川ノ治水計畫ニ於テハ全氾濫區域ノ改修後ニ於テハ新洪水面ノ高サ
ヲシテ在來ノ洪水面ノ高サニ等シカラシムルニ止メタリト雖猶之ヲ以テ必シモ河道内ノ新舊收
容力ノ差違ヲ絶對的ニ相殺均等ナラシメ得可シト云フ可ラス今試ミニ懸案洪水ノ最大流量每秒
時三十萬立方尺ノ場合ニ相當スル時刻ノ在來ノ河道内ニ於ケル收容力ヲ見ルニ毎秒時二萬五千
立方尺ナルヲ以テ之レヲ全部無視スルトキハ全流量ニ對シ約八ばーセンとノ差ヲ呈スヘシ
要スルニ懸案ノ如キ廣漠タル氾濫ノ生スル場合ニ在テハ河道内ニ於ケル河岸滿水面以上ニ位ス
ル洪水收容横斷面積ハ河道以外ノ其レニ比シ比較的ニ僅少ナリト云フノ理由ノ下ニ河道内ノ洪
水收容量ヲ無視セントシタルニアラスシテ改修後ニ於ケル河道内ノ洪水收容力ハ改修ノ方法手
段ニヨリ各ノ場合ニ別箇ノ取扱ヲ要スヘシトシテ一般ノ場合ヨリ除外シタルモノナリ若シ夫レ
將來ニ於ケル洪水量ヲ推定スルニ當リ豫テ氾濫貯水量ヲ調査スルニ當リ設定シタル各横断區間
ニ對シ其氾濫水カ各區間ヨリ懸案地點ニ流達スル時間ノ等差ヲ付シテ該地點ニ於ケル實際流量
ニ加算スベキ同時氾濫貯水增加率ヲ時間ニ對シ整理シタル後其和ノ最大トナガル場合ヲ搜素スル
トキハ一層合理的ナリ或ル水位ニ對スル増水中對減水中ノ流量ノ差違ニ關シテシ單ニ成ルヘク
多數ノ場合ニ於ケル實例ヲ捉ヘテ實際上果シテ兩者ノ間ニ幾何ノ差違アルキヲ確メンシタル
モノニシテ別ニ其差違ヲ理論的ニ公式ニ依リテ示サント努メタルニ非ス而シテ調査ノ結果同一

